審査結果報告書

平成27年9月1日

主査　氏名　濱地雅彦

副査　氏名　庄司信行

副査　氏名　阪上博行

副査　氏名　高橋昌士

1．申請者氏名　：　三宅　俊之

2．論文テーマ　：　Long-term Clinical Outcomes of Toric Intraocular Lens Implantation in Case of Cataract with Preexisting Astigmatism.
（乱視を有する白内障症例へのトーリック眼内レンズ挿入の長期臨床成績）

3．論文審査結果　：

近年，白内障治療の進歩は著しく，眼内レンズを用いて乱視矯正も同時に行うようになった．申請者らは新しい眼内レンズ AcrySof IQ Toric IOL を用いた白内障手術の長期予後について検討し，安全性と有用性を retrosupective に明らかにした．主に視力，乱視の程度，レンズの位置の変化である．

その結果，長期間に渡り視力と乱視は有意に改善し，安全性も証明された．一方，少数（6/378; 1.6%）に直乱視症例にレンズの過度の回転が認められた．そこで，その原因と改善策につき論文中で考察が加えられた．

審査では世界に類をみない多数例を検討し，眼内レンズ AcrySof IQ Toric IOL 安全性と効果を明らかにした点につき高い評価が得られた．一方，このように効果的な治療が普及しない原因についての議論があった．本法は高価な機器や煩雑な手技が要求されるため，全ての施設で行うのは困難であると考えられた．ただし，徐々に本法は普及している現状も述べられた．長眼軸眼で水晶体嚢が大きい，また術後癒着の少ない症例に術後のレンズのズレが生じる可能性があるとの考察も得られ，本法の今後の課題が浮き彫りにされた．また，本法の適応についても，明らかにしていくべきであるといった議論もあった．

以上，学位審査では様々な研究課題が残されているものの，申請者の研究論文は独創性と新規性に富み，学位論文に十分値すると結論された．